

「笑福亭笑瓶さんがつないてくださったご縁を大切につないでいく」

私は、7月5日に、今は亡き笑福亭笑瓶さんが、この間私どもの法人を応援してくださったことに対して、改めてお礼を言うために、東京の笑瓶さんのご自宅を訪問してきました。

ご自宅には、奥様とお弟子さんの笑福亭笑助さんがおられ、お線香を上げさせていただきました。

笑瓶さんと私どもの法人とのお付き合いは、大変長く、昭和57年から「渡士洋」の名前で毎月多額のご寄付をいただいております。その期間は、40年にもおよびました。

笑福亭笑瓶さんがお亡くなりになったのは、2023年2月22日のことで、ご葬儀にも参列させていただきました。ご葬儀で、奥様にお会いしてご挨拶した際に、「また改めてお礼に伺います」と伝えていたのですが、なかなか行けずにおりました。

そんな折、笑瓶さんの奥様よりお電話があり、「今年の2月に笑瓶の1周年の追悼ライブがあり、その時の収益金を寄付したい」とわざわざお電話をくださいました。追悼ライブは、笑瓶さんが初めて単独ライブを開いたumedaTRAD(旧バナナホール)で開催されたとのことでした。そのお電話のおかげで、7月5日に訪問のお約束をすることができました。

私は、当時のことを思い出して、奥様に新型コロナへの警戒が強い中で、対面でのご葬儀をしていただいたことに大変感謝していると伝えました。奥様は葬儀の開催を決めたものの開催場所がなかなか決まらず大変苦労されたとのことでした。

お弟子さんの笑助さんは、吉本興業に所属されており、山形住みます芸人を経て、現在は大阪を拠点に活動しておられます。最近の芸人さんらしく、YouTubeやX、Instagramでの発信も積極的にされています。毎週水曜日の20:00から笑助チャンネル「落としたり落とさなんだり」をYouTubeでライブ配信も含めて発信されています。興味のある方は、是非一度ご覧になってく

ださい。

笑助さんとの話では、笑瓶さんが 27 歳という若さで、寄付をしようと思って、実際に寄付を継続されたことには、感謝しかないのですが、まだまだ駆け出しで、お金に余裕があるわけでもない中で寄付は、大変だったと思います。そこに笑瓶さんの強い意志を感じないわけにはいかないと話しました。笑助さんも同感でした。

また、多くの法人がある中で、どうして私どもの法人を応援してくださったのか？ということについて、奥様にお聞きしても、ご結婚される前から寄付されていたこともあり、詳しい事は、わかりませんでした。

当日は、笑瓶さんの思い出話で時間が経つのも忘れ、気が付くと 2 時間半もの長時間の滞在となってしまいました。法人の代表として、改めてお礼と感謝を伝えることができ、本当に良かったと思っています。

笑瓶さんがつないでくださったご縁を奥様や新しく笑助さんも加えて、これからも大切に、つないで行けたらと思いました。

※文章の中で、「笑瓶さんの奥様」と書いているのは、奥様のお名前が一般に公開されていないことへの配慮です。